

は、雨上りのお庭のたまり水の排水工事(?)を子ども手傳つてしたから事である。たまつた水をマンホールへとシャベルで土へみぞをつくつて導いた。何本も枝を出した川のやうな形にして。手は汚れただけで楽しい仕事であった。途中で流れが何度も止つてしまふその度に、次々に低くして流してゆく。すつかり流れたあとはみぞを埋めておいた。

夏の雑草

ひろがほは園藝からいふと全く困つた雑草だと大岩先生がおかげになつていらつしやる。どつてもどつても後から生えるしぐ根を張る。せいゞとることにしやう。葉の形を知らせてこの草はどつた方がいい事を話す。若し花が咲いてゐるのかあつたら幸さつそくとつて一輪さしにでもさしてみる。切紙や、寫生の材料にしても可愛い。朝顔に花も葉もよく似てゐるひるがほといふ名を教へる。つゆ草も可愛い、出来る丈烟の爲には取り、取つたものは少しおまゝことのお家をがさつたりごちそうにしたりする。もう赤まんまと咲いてゐる。これもよいごちそう。すぎなもどにつないだかのあつてつこ遊びをしたりし乍ら除草に協力しやう。

野菜

みんなで蒔いた野菜がそろそろ収穫出来るものがある。何でもよい、一つ二つでもよい、獲れたら本当にうれしいその気持をみんなでみ乍ら話合ひ乍ら繪にかく。といふより新鮮な美しさは繪心のない私にもかいてみたいと思はせる。せみ、とんぼ

わざ／＼もちざををふりまわしてせみ取やとんぼ取りをしなく

てもいゝけれど蟲とりあみはあつてもよい。そして捕つた蟲は、かねがね言はれてゐることであるけれど、羽をもいだり足を取つたりしてみせるのはよしたい。そうまでなくとも羽が何枚、足が何本といつてわざ／＼教へないで、羽や、足などのことを持ち知らせ度いならば他の蟲と比べてちがひをみつけ出させるやうにし度い。

談話

安村ふさ

梅雨もからりとあけて暑い夏になりました。お話を今月は保育室の中に於て丈でなく、園内の涼しい木陰等で随時話したいものです。今月、系統的保育案の實際に豫定されてゐるお話を、七夕様、支那事變記念日の話、人形山名鐵雄君の出征、へうたんラジオ、浦島太郎、八岐の大蛇、雪の御殿であります。

七夕様 七夕祭は此の頃都會では餘り行はれませんが、地方によつては大變盛大に致す所があります。牽牛、織女の話も、地方によつて趣きを異にしてゐるかも知れません。それと、其處のこども達に親しい趣きをお話なさるのがよろしいと存じます。お話のものとの意を特に杼げる事はありませんが、こども心にびつたりと來る様なことは話したいものです。そして又單なる二星の傳説として丈でなく、天の川の事から天體の運行、星座の事など、極く／＼簡単に、問答の形式でゝも話し、夜空に燃く星を通じて

宇宙の神祕に觸れさせ度いものです。離て科學する心の培ひにある等と強く意氣こます、幾多の疑問と神祕感を心中深く印象づける様に話したいと思ひます。

支那事變記念日の話　おもへば昭和十二年七月七日、蘆溝橋の銃聲一發を機として支那事變の幕が切つて落されました。私共の胸にはあの日に至るまで及びあの日以後の生々しい思ひ出がやきついて居ります。併しこども達には詳しい話はやめて、簡単に當時のいきさつを話すが、又は具體的なある場面、ある人物を中心として、支那事變の性格を知らしめたいと存じます。年長組では南郷少佐の話が此處に入れてあります、少佐に限らず、各地の勇士を中心として具體的な例で話してよいかと思ひます。尙當日私共の幼稚園では、例年

「人形山名鐵雄君の出征」を致してまゐりました。之は支那事變一周年記念日に始めて上演致したものでありまして、昭和十三年八、九月號に脚本が載せてあります。實演の注意等も詳しく書いてありますから、それを御覽頂ければ分りますが、此は事變の始め、時局、戦争、兵隊等に対するこども達の認識を深める目的のものであります。只今の事態は一日一日推移し、こども達の認識も興味も深くなり、新まつて居ります。支那事變記念日に捉はれる事なく、近代の戦争に対する具體的認識の一助として、ヘワイ海戦でも何でも、保姆自身が書き下し、實演してみせたいと存じます。

「へうたんラジオ」正直でやさしい働きものゝ清兵衛さんはへうたんを磨く事が大好きでした。へうたんは清兵衛さんの働きぶりに感じて毎日綺麗な音樂を聞かせました。又何も食べないので

口中を甘くしてくれました。一生懸命働くな所の人々も同じ様に音樂が聞え、口が甘くなり、皆喜んでゐましたが、怠け者の重兵衛さんには一向何の效果もありませんでした。清兵衛さんは毎日働いて、夜はラジオを楽しんでゐました。其中ラジオの方が面白くなり、働くのを止めてしまひました。するとどうでせう。へうたんは何の變つた事もないたゞのへうたんになつてしまひました。そこで清兵衛さんは仕方なく、島に出て前にもましてよく働いた所が、へうたんは又よい音樂を開かせてくれたといふお話です。誠に明白な教訓を含んだお話です。併し、さう感じさせつゝも露骨な厭味がなく、涼風に吹かれてへうたんラジオを聴いてゐる氣分にするのが原作の妙味であります。話す時も淡淡と語りたいものであります。

「浦島太郎」もとは雄略紀に出てゐるのですが、萬葉集卷九の雜歌に物語風の長歌に歌はれてあります。日本古來の代表童話となつて居ますが、此には、支那の神仙譚と佛教思想の無常感、日本特殊の海洋物語が結びついて居ります。萬葉集の「春の日のかすめる時に……」にはじまるあの長歌によつて、もとの形を参考として御覽になるのもよろしいかと存じます。こども達に話す話をしては浦島が龜を助け、その背に乗つて龍宮に行くといふので誰も知つてゐる通りであります。最も興味のある點は、白髪のおぢいさんになるといふ所でせうが、龜の背に乗つて、海の中にあるといふ龍宮に行くといふ事、龍宮での生活、想像力の豊かなこどもはこれらのことからもつと多くのものを發展させて行く事でせう。

「八岐の大蛇」 皇紀二千六百年を中心として、こどもに語る神話が多く発表されました。私共も古事記をもとにして、書記を参考として試作いたし、屡々語りきかせて居ります。何れにしても、中心は素戔嗚尊の沈著冷静な御計略と豪毅な御性格、御行動であります。此の點を心にしつかり入れて話す事によつて殊更たくますとも、戦時下に於けるるべき心構へを植ゑつける事になると思ひます。

「雪の御殿」 季節にびつたりしないお話をですが、暑い時の清涼劑に、お話の大變可愛らしい所から入れました。此は當日本幼稚園協會にて近く談話集第二を出版する時に入れるのであります

が、「幼兒に聽かせるお話」にも載つて居ります。大雪の降つた朝、冬雄さんは雪のこども達と橇に乗つて雪の御殿に遊びに行きました。そこでは何もかも氷、雪です。眞白な着物の雪姫様を中心とした遊びは大變愉快です。頂くアイスクリーム、牛乳、お汁粉、何でもコチ／＼に凍つてゐます。冬雄さんは夢中で一日を樂しく遊び暮し晩方四頭の白熊の曳く橇で歸つて來たといふお話です。實際行かずとも、口に入れずともお語ぶりによつて涼しい思ひがする事であります。

最後に、此の一學期間かうして書いて參りましたが、大體去年夏出版の保育案、而も年少記に據つてゐる只今の時勢からは何かもの足りないものがあります。併し翻つて考へてみますと、一々お話を時局精神と聯繫させるのも十分俯に落ちぬ點がありま

す。そこで私は時局精神涵養の一助にもと、「...さんの懇問文」といふ題で只今試みて居ります。つまり或る兵隊さんとある幼稚園児が懇問文のお話によつて仲良くなり、手紙をお互ひにやりとりしてあるこいふ形式に於てあります。兵隊さんの側からは戦局の發展と戦争の模様を、こどもの側からは日常生活の様子を語らせ、こどもとして今とるべき態度、將來なるべき姿を示唆するのです。果してかういふ方法がいいものか疑問であります。が時局とお話をいふ事を始終念として居られる皆様の御教導を仰ぎたく存じます。

手

技

及川 ふみ

鉢仕事

動物のきりぬき數種(畫用紙)

幼兒の親しみ深い動物、象、猿、キリン、熊、虎、ライオン、などの數種を贋寫判りすりに用意しておいて、その輪廓を切りぬく、この時動物の繪はその動物そのものゝ特徴を充分にあらはすといふ事は勿論であるが、又一方幼兒たちがこれをきりぬくのに適當な線の屈曲である事も考へて畫くことが大事である。きりぬいた動物をそれ／＼の色にぬるか、或は動物はそのままにしておいてこれをはつた帖面の臺紙をぬるかいづれかにする。